

レファレンスセンター報告

インフルエンザ

世話人

感染研インフルエンザウイルス研究センター 小田切孝人

コア地衛研:

岩手県環境保健研究センター: 高橋雅輝

東京都健康安全研究センター: 林志直

大阪府立公衆衛生研究所: 加瀬哲男

山口県環境保健センター: 戸田昌一

愛媛県立衛生環境研究所: 山下育孝

福岡県保健環境研究所: 千々和勝己

○愛知県衛生研究所: 皆川洋子、安井善宏

サポート地衛研:

北海道衛生研究所: 長野秀樹

横浜市衛生研究所: 川上千春

富山県衛生研究所: 滝澤剛則

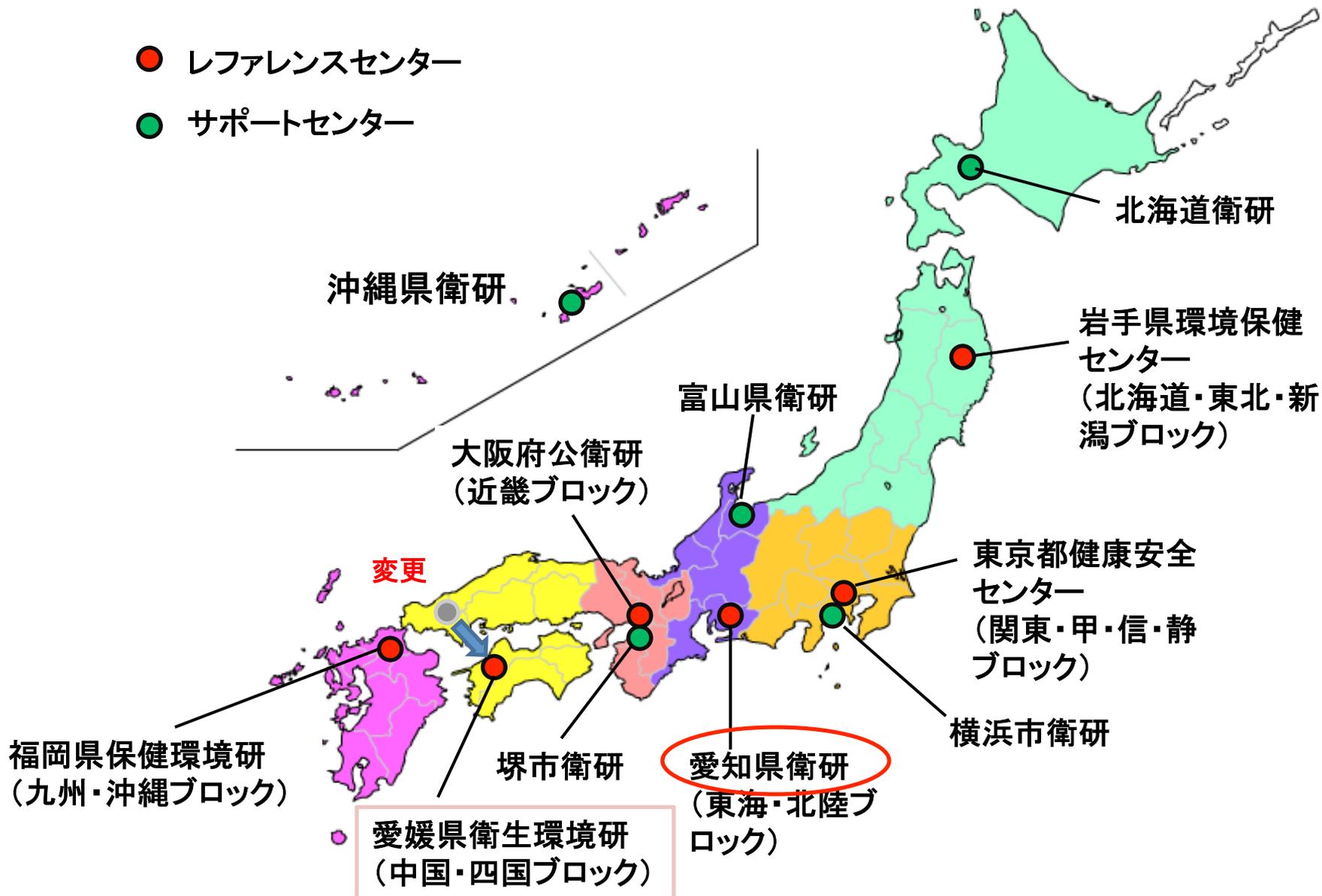
堺市衛生研究所: 岡山文香

沖縄県衛生環境研究所: 喜屋武尚子

インフルエンザレファレンスセンター (H26年度メンバー)

● レファレンスセンター

● サポートセンター



H25年度の活動報告(1)

- 改変H7-RNA陽性コントロール(識別マーカー入り)の配布
- 74カ所の地衛研に対してインフルエンザウイルスのリアルタイムRT-PCR検査の外部精度管理試験(EQA)の実施
- 薬剤耐性株サーベイランスの実施
 - TaqMan PCRで検出(地衛研)、感受性試験(感染研)
- 全国地衛研のインフルエンザウイルス分離検査体制の現状と問題点の把握
 - 地衛研全国協議会会員73機関を対象にアンケート調査を実施

陽性対照受領後4日以内に実施したコア・サポート及び一部協力地衛研の検出感度結果
(2013年4月15日に受領後、4月25日に全地衛研に情報提供)

	Real- Time				Conventional		
回答日 機器数	感度	H7	M	回答日 機器数	感度	H7	M
(1日後) 10台	-3以上	8/10 (80%)	8/10 (80%)	(1日後) 6台	-3以上	5/6 (83%)	3/6 (50%)
	-3未満	2/10	2/10		-3未満	1/6	3/6
(4日後) 26台 24機関	-3以上	24/26 (92.3%)	23/26 (88.5%)	(4日後) 17台 17機関	-3以上	16/17 (94.1%)	13/17 (76.5%)
	-3未満	2/26	3/26		-3未満	1/17	4/17

注：10倍段階希釈にて実施し、10倍（-1と記載）希釈では全機関が検出可能
配付された陽性対照は、1,000倍（-3と記載）希釈において検出可能の設定

H25年度の活動報告(1)

- 改変H7-RNA陽性コントロール(識別マーカー入り)の配布
- 74カ所の地衛研に対してインフルエンザウイルスのリアルタイムRT-PCR検査の外部精度管理試験(EQA)の実施
- 薬剤耐性株サーベイランスの実施
 - TaqMan PCRで検出(地衛研)、感受性試験(感染研)
- 全国地衛研のインフルエンザウイルス分離検査体制の現状と問題点の把握
 - 地衛研全国協議会会員73機関を対象にアンケート調査を実施

これまでに実施したEQAについて

年月	参加地衛研	パネル
～2011年9月	11 (コア・サポート)	1. H5陽性コントロール 2. 未知7検体 3. RNA抽出チェック 2検体
～2012年12月	11 (コア・サポート)	1. 未知4検体(RNA抽出不要) 2. 未知6検体(要RNA抽出)
～2013年12月	74	1. H5陽性コントロール 2. H7陽性コントロール

H25年度の活動報告(1)

- 改変H7-RNA陽性コントロール(識別マーカー入り)の配布
- 74カ所の地衛研に対してインフルエンザウイルスのリアルタイムRT-PCR検査の外部精度管理試験(EQA)の実施
- **薬剤耐性株サーベイランスの実施**
 - TaqMan PCRで検出(地衛研)、感受性試験(感染研)
- 全国地衛研のインフルエンザウイルス分離検査体制の現状と問題点の把握
 - 地衛研全国協議会会員73機関を対象にアンケート調査を実施

2013/14シーズン 抗インフルエンザ薬耐性株検出状況



AH1pdm09耐性株
103/2,446 (4.2%)

H25年度の活動報告(1)

- 改変H7-RNA陽性コントロール(識別マーカー入り)の配布
- 74カ所の地衛研に対してインフルエンザウイルスのリアルタイムRT-PCR検査の外部精度管理試験(EQA)の実施
- 薬剤耐性株サーベイランスの実施
 - TaqMan PCRで検出(地衛研)、感受性試験(感染研)
- 全国地衛研のインフルエンザウイルス分離検査体制の現状と問題点の把握
 - 地衛研全国協議会会員73機関を対象にアンケート調査を実施

インフルエンザウイルス分離検査体制の現状と問題点を把握するためのアンケート調査結果

主なアンケート調査項目

- 国内全体における過去3シーズンの分離数の変化
- 個々の研究機関における過去3シーズンの分離効率の変化
- ウイルス分離で使用している培養細胞の維持管理法

調査結果のまとめ

- 過去3シーズン連続してウイルス分離効率の低い機関がある
- 過去3シーズンのNESIDへの登録分離数はほぼ同じ
- 培養細胞は概ね適正に維持管理されている
(一部の機関では適切な維持管理ができていなかった)
- 人事異動によって担当職員が定期的に入れ替わることから、ウイルス検査技術に関する知識や技術の継承が困難

H26年度の実施

○既に実施した項目

- 4月に国内で発生したH5N8亜型高病原性鳥インフルエンザに対するH5亜型遺伝子検出系に関する情報提供(5月7日)

○実施予定の項目

- EQAP(2014)の実施
- 薬剤耐性株サーベイランスの継続

TaqMan PCRで検出(地衛研)、感受性試験(感染研)

H26年度の実施

○既に実施した項目

- 4月に国内で発生したH5N8亜型高病原性鳥インフルエンザに対するH5亜型遺伝子検出系に関する情報提供(5月7日)

○実施予定の項目

- EQAP(2014)の実施

- 薬剤耐性株サーベイランスの継続

TaqMan PCRで検出(地衛研)、感受性試験(感染研)

EQAP(2014)について

- 事前アンケートの送付
- 今年度は未知の検体として6検体を送付
(昨年度は陽性コントロールのみを使用)
- 亜型同定およびCt値の報告
- 検査に関するアンケートの送付

H26年度の実施

○既に実施完了した項目

- 4月に国内で発生したH5N8亜型高病原性鳥インフルエンザに対するH5亜型遺伝子検出系に関する情報提供(5月7日)

○実施予定の項目

- EQAP(2014)の実施
- 薬剤耐性株サーベイランスの継続

TaqMan PCRで検出(地衛研)、感受性試験(感染研)

◆2014/15シーズンの実施要綱は8月に発送予定